

編 集 後 記

平成27年度も終盤戦に突入し、皆様の教育・研究活動も大詰めを迎えて多忙な日々をお過ごしのこととお察しいたします。本年度も、北海道医療大学歯学雑誌に論文等の投稿並びにお忙しい中、論文の査読をお引き受けいただきました先生方のご支援ご協力を深く感謝申し上げます。

2015年はノーベル医学生理学賞に北里大学の太田先生が、そして物理学賞には東京大学の梶田隆章先生が選出され、日本のサイエンスの明るい未来を予見させるようなすばらしい年になったのではないのでしょうか。私が特に印象に残ったのは両先生の受賞後の会見でのとても謙虚な自然科学に対する姿勢とお言葉でした。これらに研究者としてのあるべき姿の一端を垣間見たような気がいたしました。

さて、本号では生化学分野の田隈泰信先生に唾液分泌の分子機構（cAMPを中心に）に関する総説を投稿していただきました。生理学でも交感神経はcAMPを介してタンパク分泌、副交感神経はカルシウムによる水分分泌と授業で当たり前のように述べておりますが、それらの発見に至るまでの臨場感あふれる論争と先生ご自身の実験から得られた多数の所見を幅広く、わかりやすく説明していただいております。文中には名誉教授の東城庸介先生のお名前もところどころに見受けられ、歯科基礎医学の礎を築いた先生方の偉大な功績に深い感銘を受けました。また、歯科矯正学分野の飯嶋雅弘先生には新シリーズである「機器分析入門」としてエックス線回折に関するミニレビューを投稿していただきました。今後の先生方の研究のさらなる発展に向けて是非ご一読ください。さらに、本号には4編の原著論文（和文と英文）の投稿もいただきました。「優秀論文賞」の争いも一層激しくなってきた模様です。次号以降も歯学雑誌のさらなる充実に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようどうかよろしくお願いいたします。（石井 記）

次号（第35巻、第1号）の発行は平成28年6月30日です。

投稿原稿募集の締め切りは平成28年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2015年第34巻、第2号の巻末をご参照ください。